

第206回 「元気に百歳」クラブ「道草」(第15回通信句会)開催

蔓延化しているコロナウイルス感染症を、防御しながらの北京冬季オリンピックは、幾つかの話題を残したまま閉会致しました。技とスピードを競った選手の皆さんの奮闘や感動の金メダル物語はともかく、スーツ失格の話、ドーピング疑惑などなど、何かと話題に事欠かないオリンピックではありました。ドーピング問題は今後とも、テレビや新聞紙上で事実関係が追求され論議されていくことだと思われまます。さて、私たちの2月の通信句会です。ようやく3回目のワクチン注射が進み始めました。引き続きコロナウイルス対応策を厳守しつつ、元気に楽しく俳句に取り組んでいきたいものです。2月通信句会に参加された方々は、下述の皆さんでした。

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、
金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、
手嶋錦流さん、原晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然
の16名。

2月の兼題は「椿」と「猫の恋」、それに「当季雑詠」の各人3句を提出することでした。前月下旬に開いたオンライン会議、問題があれば改善して、次回の通信句会を実施するという方式が、定着してきたように思います。創風さん、和感さん、晶如さん、傘吉さん、今月もお世話をさせていただき有難うございました。今月、皆さんが詠まれ、皆さんが選句された優秀句は下述の通りです。どうぞご高覧下さい。なお、前回のオンライン会議で要望がありました晶如先生への提出句に対しての「ひと言」要求ですが、今回は実現されております。如何でしょうか。ご指摘の「ひと言」に、「あっ」と気が付かれたのではないのでしょうか。引き続き、この方式が定着していくことを期待します。

兼題1. 「椿」

◎『椿落ち丹沢山塊雨兆す』	栄女	天1☆8
◎『凜と生き椿のごとく散りし君』	歌多音	天1
◎『白椿雪の白さに優りけり』	清助	天1
◎『蹲 <small>つくばい</small> に落とす一輪白椿』	白然	☆8

兼題2. 「猫の恋」

◎『朝まだき銀座路地裏猫の恋』	栄女	天1☆7
◎『淡き夢浮かれ猫奴に破らるる』	傘吉	天1
◎『玻璃越しに片耳動き猫の恋』	晶如	天1
◎『恋猫の声の高低闇剥がす』	明峰	天1

兼題3. 当季雑詠句

◎『潺 <small>せせらぎ</small> に春のはしりの音を聞く』	白然	天2
◎『雪下駄のぎしぎし津軽じょんがらよ』	荻女	天2
◎『まだ頬に風のとんがる二月かな』	明峰	天1☆10
◎『春蘭の花を覗かん膝を野に』	晶如	天1
◎『早春賦ソプラノ響き風に舞う』	柴楽	天1
◎『幼き日初午に旗菓子ひとつ』	和感	天1
◎『梅林の声のささやき微香かな』	創風	天1

兼題1では、栄女さんの句「椿落ち丹沢山塊雨兆す」が、天賞一つと最多得票賞(☆印)を獲得しました。上五の「椿落ち」に、ふっと胸騒ぎがする感じを表現されました。顔を上げ丹沢連山に目をやれば、雨が降り始めるのではないかと……。その気持の動きを見

事に描き切りました。次に歌多音さんの句「凜と生き椿のごとく散りし君」が、天賞一つを獲得しました。散る椿の潔さというか、簡潔さは「あっ」と、声が出るほど一瞬です。凜と生きて来た方が、椿のように散っていった・・・合掌。

次に清助さんの句「白椿雪の白さに優りけり」も、天賞一つを獲得しました。作者の「白椿好き」が、句全体から感じ取れます。天賞推挙のコメントにもありますが「白椿が雪の白さよりも白い」との思い入れ、白椿を愛する気持ちが、上五に「白椿」と語りかける冒頭から溢れています。白然の句「蹲に落とす一輪白椿」が、最多得票賞（☆印）を獲得しました。中七の「落とす」が、なかなか浮かびませんでした。

兼題2では、ここでも栄女さんの句「朝まだき銀座路地裏猫の恋」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。上五の「朝まだき」に使われている「まだき」という副詞は、いつかは自分でも、句の中に詠み込んでみたい言葉です。意味は「そのときが来ていないのに」ということでしょうか。「朝の明けきらない銀座路地裏」。そこでの「猫の恋」です。ふらふらと歩いて来る猫が見えます。次に、傘吉さんの句「淡き夢浮かれ猫奴に破らるる」が、天賞一つを獲得しました。この句は、一転して「見ていた夢を猫の恋声に破られる」という場面が変わります。天賞推挙のコメントにもありますが、「浮かれ猫の奇声に突如起こされてしまった滑稽さ」に、選者の共感が集まったようです。

次に晶如さんの句「玻璃越しに片耳動き猫の恋」が、天賞一つを獲得しました。上五の「玻璃越し」とは「硝子戸越し」ということ。「硝子戸越し」では6音かかりますが、瑠璃越しとすれば5音に収まります。そして、言葉も美しく「はり」という響きも好いですね。さらに「猫が片耳を立てた」という所作に目を移していること。こういう句から「句の詠み方」の勉強をしたいですね。次に明峰さんの句「恋猫の声の高低闇剥がす」も、天賞一つを獲得しました。性とはいえ、あの猫の声は闇を一瞬にして剥がすほどのエネルギーを持っています。これも明峰さんならではの表現です。天賞推挙のコメントに「闇を剥がす」という表現に「恋猫の切なさが伝わってくる」とあります。

兼題3では、白然の句「潺に春のはしりの音を聞く」が、天賞二つを獲得しました。「せせらぎ」に「潺」という漢字を使ったことが指摘されました。「せせらぎ」は、川の流れて浅くなっているところ、独立した幾つかの「子」の流れが出来ています。この漢字を見ていると、中の「子」の集まりに見えてくるように思いました。そして春のはしりの音も聞こえてきました。次に荻女さんの句「雪下駄のぎしぎし津軽じょんがらよ」も、天賞二つを獲得しました。この句の面白さは、中七の「ぎしぎし」、下五の「じょんがら」のリズム感ではないでしょうか。じょんがらの由来には、戦国時代の青森、常縁寺和尚の悲劇が介在しているとか。この句は「ぎしぎし、じょんがら」のリズムを楽しむ句だと思われれます。

次に明峰さんの句「まだ頬に風のとんがる二月かな」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。句全体から香り立つ二月の表現と言いたいですね。「まだ頬に風のとんがる二月」という表現に、多くの方が一票を投じました。見事な表現でした。次に晶如さんの句「春蘭の花を覗かん膝を野に」が、天賞一つを獲得しました。野に膝について観賞する春蘭の可憐さと言いましょうか。「膝を野に」の表現に、早春の柔らかい感触を読者に想像させます。次に柴楽さんの句「早春賦ソプラノ響き風に舞う」が、天賞一つを獲得しました。「春は名のみ風の寒さや」です。歌う声のソプラノ部は響き、外では風が舞っているという情景に一票が投じられたのでしょうか。そうでした。そう言えば、この句にも「ひと言」が、付せられておりました。

次に和感さんの句「幼き日初午に旗菓子ひとつ」が、天賞一つを獲得しました。初午の日はお稲荷さんの祭りです。神社、祠には、旗や幟が立てられ、この年の五穀豊穡が祈られます。お参りをした幼き日、お菓子ひとつを買われたのでしょうか。貰われたのでしょうか。ほのぼのとした懐かしさが込み上げてきますね。次に創風さんの句「梅林の声のさ

「さやき微香かな」が、天賞一つを獲得しました。梅林でじっと耳を澄ませていれば、聞こえて来るささやきや漂う微香は、柔らかく心を和ませてくれます。この早春の柔らかき情景に一票が投じられました。

かくして今月も、バラエティに富んだ句が集まったせいでしょうか、皆さんの投票が割れました。投票を悩ませる佳句が集まったとも思われます。これからも切磋琢磨、季題に対する物語を思い起こし、周囲を見る眼を研ぎ澄ませましょう。晶如先生からは「歳時記に目を入れよ」との指摘があります。季語をもっともっと勉強しましょう。

今月のオンライン会議は2月27日です。今日はテストランで実施され、討議されている「夏雲」システムのことについては触れませんでした。今月のオンライン会議で、また話題になるでしょう。真摯な討議が出来ればと思います。よろしくお祈りします。

(白然記)